

10年を迎えたCITP制度 ～キャリア形成に果たしてきた軌跡～

2025年2月7日

情報処理学会 資格制度運営委員会

旭 寛治

CITP制度10周年



- 個人認証の運用が開始されたのは2014年度
⇒ 今年度は10周年に当たる
- CITPコミュニティ
 - 2014年12月10日、第1回CITPコミュニティ会合開催（於：NEC）
その1ヵ月前に、第0回(?)の準備会合が開かれている（於：化学会館）
 - 2025年1月15日、第50回CITPコミュニティ会合開催（於：NEC）
- CITPフォーラム
 - 2016年2月4日、CITPフォーラム2016開催（第1回、於：一橋大学）
 - そして本日、CITPフォーラム2025開催（第10回、オンライン開催）
- 10年にわたり、活動を続けて来られたCITPの皆様に謝意を表します

CITP制度発展の軌跡



- 2008年：IPAと情報処理学会とで高度IT人材の資格制度を検討するWGを設置
- 2009～2012年度：情報処理学会で制度設計（認定基準等、諸規格の制定）
- 2009年6月：IFIP IP3に加入（2010年1月よりボードメンバー）
- 2013年6月：制度創設を発表
- 2014年4月：個人認証の本運用を開始
- 2014年12月：第1回CITPコミュニティ会合
- 2015年4月：企業認定の本運用を開始
- 2018年2月：IFIP IP3の国際認定を取得（2023年3月認定更新）
- 2019年4月：技術士会との連携を開始
- 2021年9月：データサイエンティスト職種認定開始（企業認定）
- 2022年6月：オープンバッジの配布を開始

キャリア形成とCITP制度



- 「キャリアは会社から与えられるもの」から「一人ひとりが自らのキャリアを選択する」時代となってきた
(内閣官房「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」より)
- 「働き方」の変化に伴い、キャリア形成、キャリア自律の重要性が高まっている
 - 働き方の多様化、個人の価値観やライフスタイルに合わせた自由な働き方へ
 - 年功序列・終身雇用・メンバーシップ型雇用の見直し
 - ジョブ型雇用へのシフト・転職の増加
- CITP制度は、次の点でキャリア形成を支援できると想定
 - 資格の取得や維持には、継続的な学びやリスキリングが必須
 - コミュニティへの参加は、色々の面で技術者の資質向上に有益

CITP認定者、企業認定制度の活用企業、制度運営に携わる人々の声

社会を支える高度IT人材を担保、コミュニティが広がる

21世紀、情報技術（IT）は我々の生活にとけ込み、社会インフラどころか、電気、水道、ガスのように、日本は世界屈指のIT大国で、132万人を超える技術者を擁している※。IT技術は間口も奥も、直感的にそれを判断しにくくなっている。

高度IT人材として、情報処理推進機構ITスキル標準（ITSS）レベル4のスキルを備えている（※）として、2014年に情報処理学会の認定情報技術者（CITP：Certified IT Professional）の制度となり（2023年3月末現在）、国際的に通用する資格ともなっている。

<https://www.ipsj.or.jp/column/lead.html>

2023.05.10

高度なIT人材を可視化する業界唯一の国際資格（吉野松樹氏、西直樹氏）



2023.05.10

広がるCITPコミュニティ 社会のためにスキルや専門知識を発揮する（菊池修氏）



2023.05.10

スペシャルでゼネラル T型人材であるCITPである自負（赤根大吾氏）



2023.05.10

CITP個人認定を継続 社外で自分の力を発揮できる場を得る（浜本拓氏）



2023.05.10

プロジェクトの鍵は人 CITP企業認定による人財の質担保で成功に導く（後藤協子氏）



■インタビュー・執筆

塚崎 朝子

ジャーナリスト。読売新聞記者を経て、科学・技術分野の執筆多数。慶應義塾大学環境情報学部非常勤講師。

国際基督教大学教養学部理学科卒業、筑波大学大学院経営・政策科学研究科修士課程修了、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科修士課程修了。主な著書に『免疫の守護者 制御性T細胞とはなにか』、『世界を救った日本の薬』、『新薬に挑んだ日本人科学者たち』（講談社）、『iPS細胞はいつ患者に届くのか』（岩波科学ライブラリー）、『患者になった名医たちの選択』（朝日新書）など。



CITP 認定者の声から



- CITPコミュニティを通じて、コロナ禍でも同業者と活発に交流できた。多方面の情報が蓄積され、業務にも生かせる
- CITPから得ているのは、無形の財産だ。CITPコミュニティを通じ、日常業務を離れた別の引き出しを持っていると、役に立つ。専門家が切磋琢磨し合えるまたとない場が持てる
- CITPコミュニティ活動から日々の業務にフィードバックできることもある
コミュニティ活動を通じて自分が「T型人材」だと自認できるようになった
- コミュニティ活動は、他者に価値を認められる場で、自己の「承認欲求」が満たされると感じている。同時に、企業が社会的責任（CSR）を発揮するように、個人が蓄えた能力を社会に還元する場でもある
- CITPコミュニティで、大学での情報倫理などの教育に協力している。日常業務で積み上げた知識と経験の発露の場として、独自の教材を作って講義を行うことは、会社の仕事では得られない貴重な経験だ。正しく情報技術を使うことを理解してもらう取り組みは、プロボノとして、とてもやり甲斐がある

振り返ってみると



- プロフェッショナルコミュニティ(プロコミ)の構築は、CITP制度創設の大きな目的
- CITP制度検討に際して、プロコミの必要性を強く認識
 - 有識者の座談会で、プロコミが必要との意見が相次いだ(DP Vol.3 No.2)
 - 産構審の人材育成WGからも、高度IT人材育成のためプロコミ構築要の提言あり
- CITP制度創設当時、次のようなことをプロコミに期待していた
 - 最新技術動向の共有等、技術者同士の交流を通じた自律的な質の向上
 - 社会提言、パブリックコメントへの対応
 - 情報分野の専門家として、公的な審議会・委員会等への参画
 - 情報分野における教育・人材育成等の様々なプロフェッショナル貢献活動
 - ピアレビューによる高レベル情報技術者の評価
 - 情報技術を基盤とする社会の諸制度のグランドデザインの推進

さて、これからは

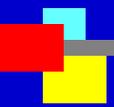


■ 情報処理学会は

- DX人材等、時代のニーズに見合った資格を導入するなど、CITP資格制度をよりよいものにしていきたい

■ CITPの皆様は

- 仕事が忙しい中で、コミュニティ活動を推進していただいているCITPの方々のご尽力により、技術者同士の交流を通じた相互研鑽や大学・高校の情報教育に対するプロフェッショナル貢献等、様々な成果が上がっている
これらの継続と、活動参加者の増加を期待します
- 100万人規模の情報技術者集団をCITPがリードするという状況を目指していただきたい

A decorative graphic in the top left corner consisting of three overlapping squares: a red one on the left, a cyan one on top, and a yellow one on the bottom.

ご清聴ありがとうございました